

中部地区における着衣動向について 第2報 女子中学生

市邨学園短大 磯部光子 岐阜女子短大 大地昭子
 名古屋女子大 酒井清子 名古屋市立女短大 佐野恂子
 岐阜女子短大 道家堂き 山田家政短大 旗美代子

目的 第1報と同様に全国小中学生の着衣に関する実態調査に参加し、名古屋市内の女子中学生が四季それぞれに、どのように通学服を着用しているかについて検討をおこなった結果について報告する。

方法 3校の女子中学生1,2年各115～124人ずつを対照として、1980～1981年の4,7,10,1月の各月にアンケートによって調査した。主な内容は下記のごとくである。

1. 着用枚数
2. 上半身と下半身の衣服構成
3. 最內衣の着用状況
4. 最內衣の衿あきと袖の長さとは着丈
5. 着用感
6. 衣服重量
7. 荷重分布

結果 ① 3校ともに上衣に比して下衣の枚数が少ないが、とくに1月に下衣が少なく、1～2枚の人が約70%もある。また、制服がジャンパースカート形式のときには荷重分布が非常に大きい場合がある。これらのことは、成長期にある12～14歳の3年令間の女子の健康上の問題点と思われる。

② 7月に「暑い」「汗が出る」という人がそれぞれ半数以上あり、1月に「寒い」という着用感を持つ人が半数近くあるのは、環境の温・湿度に適合する着用状態でないことを意味していると考えられる。

③ 最內衣に下着を着用しない人がかなりいることは、衣服管理面での問題点であろう。

④ 従来、制服について各面から検討されているが、今回の調査で、衛生面にも問題があると思われる。